

第 部門 大阪平野における仏教寺院の立地分布特性に関する研究

大阪工業大学工学部 学生員 ○鈴鹿 迪胤
大阪工業大学工学部 学生員 佐藤 利秀
JR 西日本コンサルタンツ(株) 正会員 南田 幸保
大阪工業大学工学部 正会員 岩崎 義一

はじめに

現在、日本には多種雑多の宗教が存在する。それら宗教の多くは、歴史的に人々の生活に密接に関わってきた。本研究では、宗教の拠点とも言うべき現在の寺院立地がもつ都市史とのマクロ的關係を明らかにするため、歴史街道や信者層等宗教の特性を大阪平野(淀川以南・府道 38 号線以北)における寺院立地と空間的に重ねてみることにより、その特性を把握した。作業内容は、次の3項目である。

歴史街道付近(300m以内)の寺院とそれ以外の寺院の立地数を調べ、街道と寺院の關係性をみた。仏教各宗の特徴を成立の展開と信者層などの特性を整理した。平安・鎌倉仏教の寺院立地分布を宗派別(真言宗、融通念仏宗、浄土宗、浄土真宗、日蓮宗)に地図に表した。

寺院の立地と歴史街道

寺院立地数(今回確認できたのは1229件)としては、浄土真宗が765件と最も多く全体の5割以上を占めている。次いで、浄土宗が192件と約2割を占め、真言宗116件、日蓮宗95件、融通念仏宗61件となっている。歴史街道付近(300m以内)に立地している寺院数の割合をみると、全宗派合計では約7割となっている中で、浄土宗と日蓮宗が約8割、融通念仏宗が7割となっており、寺院の立地に歴史街道が大きく影響したことが考えられる。

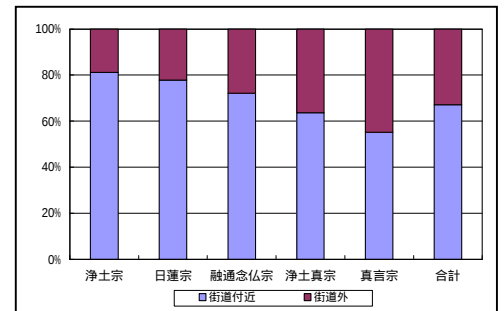


図1 寺院立地数の構成比

仏教各宗派の展開と寺院立地分布

1. 平安・鎌倉仏教成立の展開：平安仏教・・・奈良仏教の時代では、仏教は国家宗教的性格が強く、国家側でも盛んに仏教の保護を行っていた。こういった奈良時代の情勢から、政治から一定の距離を置き呪術体系と加持祈祷などを重視した貴族階級中心の平安仏教が成立した。^{2) 3) 4) 5)}

鎌倉仏教・・・鎌倉時代に入ると武士・民衆が力を持ち始め、貴族階級中心の平安仏教に対して、教義や主張は様々だが何らかの形で武士・民衆中心の仏教として鎌倉仏教諸宗が成立した。^{2) 3) 4) 5)}

表1 平安・鎌倉仏教の展開

宗派	信者層 信者層の中心居住地	朝廷	貴族	武士	民衆	特徴
		主要都市部	都市部	町場	農村	
平安仏教	真言宗	◎	◎	○	○	平安時代の国家や貴族が求めていた呪術体系や加持祈祷の方法を備えていた。日蓮宗の登場で真言宗の地位は低下し、国家側から保護されなくなった。そのため、平安時代の支配層に深く浸透した。
鎌倉仏教	融通念仏宗	-	○	○	○	念仏の持によって、世俗的な利益を得るといった新しい教義を説き、貴族、武士、農民の間に急速に広まった。だが、依然として貴族の生活に寄り添っていたことから、貴族階級の間に広く浸透するまでには至らなかった。14世紀には貴族の権力が衰微し、武士が権力を握り、貴族の没落と並行して、融通念仏宗の地位も低下した。
	浄土宗	-	○	◎	○	平安時代の仏教よりあらゆる階級の人間に手の届くものにしたこと、また、鎌倉時代に盛んになった。中でも、對浄土宗の新しい武士層に、貴族、僧侶と並ぶ理由として深く浸透した。
	日蓮宗	-	-	◎	○	鎌倉前期の頃、鎌倉では武士が中心であり、日蓮は彼らの生活や精神を支援するものとして登場し、次第に武士の生活に寄り添うようになった。14世紀には、武士の生活に寄り添うようになった。14世紀には、武士の生活に寄り添うようになった。
	浄土真宗	-	-	○	◎	浄土宗の教義の知識をさらに単純化することによって、念仏を説き、武士の生活から民衆すべての生活へと押し広げた。そのため、農民と武士の間に広く浸透した。また、14世紀後半から、北陸・畿内の農村を中心にめざましい発展を遂げ、鎌倉の封建体制にまで発展した。

宗教の社会的浸透の過程として、先ず朝廷・貴族などの支配層中心の宗派が成立し、時代の流れとともに武士、そして農民と徐々に庶民中心の宗派が成立した。また、それと同時に宗派ごとの勢力においても、支配層中心の宗派から民衆中心の宗派へと移り変わっていった。(表1参照)

2.寺院立地の特徴：真言宗・・・貴族などの支配層に信仰されており、民衆には広まっていなかったために、寺院の立地は大坂周辺の都市部に多く分布し、その他の地域では少ないという結果になったと考えられる。山岳部にも分布がみられるのは、真言宗が山岳信仰的な特徴を持っていたためと考えられる。

融通念仏宗・・・寺院の立地に偏りが無いのは、隆盛期に貴族的性格が薄れ幅広い層に信仰されたためと考えられ、平野周辺に多く分布しているのは総本山が平野にあったためと考えられる。

浄土宗・・・大坂・堺に集積がみられるのは都市部に住む武士層に深く信仰されたためと考えられる。他の地域においても武士という特殊な層に信仰されていたため、寺院が一定の群をなして立地したものと思われる。

(図2参照)

浄土真宗・・・寺院の立地分布に偏りが少なく広域に分布しているのは、民衆や下級武士に広く信仰され、信者等の生活の場が農村部等であったことから結果的に広域的に分布していったと考えられる。また、浄土真宗が民衆などの層に信仰され、農村など、街道が及ばない地域にも多く寺院が建てられたことが街道との関係が強くみられない結果になったと考えられる。(図3参照)

日蓮宗・・・大坂・堺に集積しているのは、浄土宗と同じく都市部に住む武士に深く信仰されたためと考えられる。また、大坂周辺にも寺院が多く分布しているのは、日蓮宗が都市部近郊に住む商工民をはじめとする町衆にも深く信仰されていたためと考えられる。

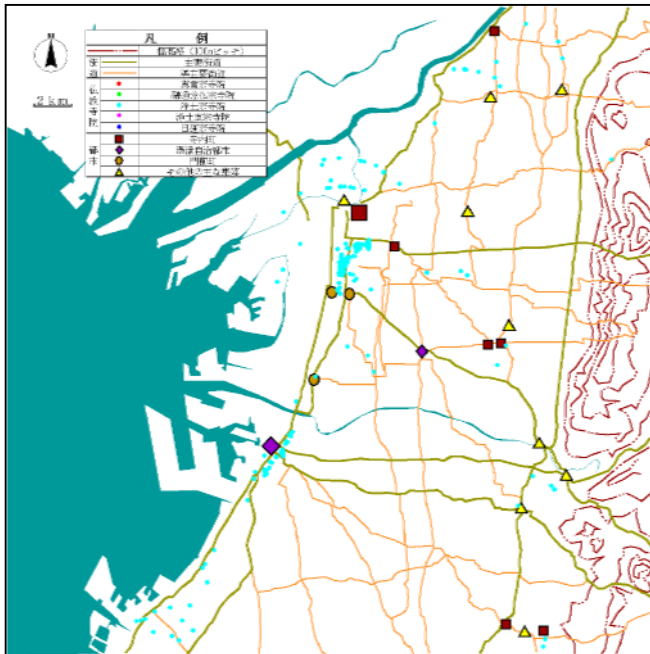


図2 浄土宗寺院の立地分布

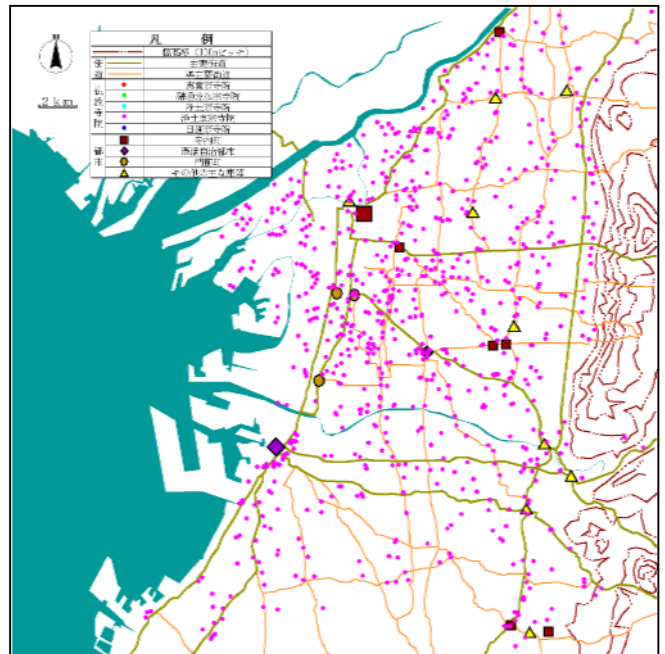


図3 浄土真宗寺院の立地分布

まとめ

本研究では、次の二つの点を明らかにした。

寺院の立地は歴史街道の付近に多く、歴史街道が大きく影響していた。

寺院の立地は宗派ごとにそれぞれ異なった分布形態をしており、その差は信仰形態や信者層の違い及びその居住地が大きく影響したものと考えられる。

仏教寺院の立地は、空間的には歴史街道に、社会的には信者層とその生活の場に大きく影響を受けて分布したものと考えられる。

<参考文献>

- 1)小野康博・下出積興・相山林継・鈴木範久・園田稔・奈良泰明・尾藤正英・藤井正雄宮家準・宮田登著/日本宗教事典
- 2)インデックス株式会社/やさしい仏教入門
- 3)村上重良/日本宗教事典
- 4)枚方市史編集委員会/枚方市史 第2巻
- 5)山折哲雄監修/すぐわかる日本の宗教
- 6)千葉乗隆/図解雑学浄土真宗
- 7)ひろさちや/仏教の歴史 10
- 8)武藤善一郎/街道の道標
- 9)吉田地図/精密住宅地図
- 10)株式会社ゼンリン/ゼンリン電子地図帳